

新年号

タブラ

ラサ

# Tabula rasa

(図書館学生広報誌)

第16号

## 謹賀新年

新年あけましておめでとうございます。  
今年度初めてのタブラ・ラサとなりました。  
今回は、2011年にどのような活動をしてきたのかという報告です。昨年、  
図書館やサポーターがどういう風変わったのか、少しでも興味を持っていただけましたら幸いです。

図書館サポーター副長・日本文学科3年 菰方 紫乃

### 〈目次〉

ごあいさつ  
古本市  
長府中ブックトーク  
学生協働シンポジウム  
ブックハンティング  
第13回図書館総合展  
第6回読書家大賞・編集後記



梅光学院大学図書館学生広報誌

『Tabula rasa』 第16号

発行日：2012年1月20日

編集・発行：梅光学院大学図書館サポーター

## “タブラ・ラサ”の由来

図書館学生広報誌『タブラ・ラサ』は、2005年に『図書館新聞』として創刊されたものが起点となります。タイトル「タブラ・ラサ」は社会契約説を唱えたジョン・ロックの言葉で、ラテン語で「白紙」を意味します。「生まれたとき人は皆白紙である。そこに、経験によって様々な観念が書き込まれる」

その一つのよりどころとして図書館が存在してくれば、読書を通して様々な経験が出来れば、そのような想いが込められています。

5月・11月

# 古本市

第1回：5月23日～27日の4日間

第2回：11月1日～8日の7日間

5月、11月にそれぞれ図書館サポーター主催で古本市を行いました。教職員の方々に本を持ち寄っていただき、どちらも大盛況でした。なお、**売り上げの一部は、東日本大震災で被災された方々への義援金として寄付しました。**

## 5月

古本市の立て看板



↑誰か隠れてマス…

5月の古本市は掘り出し物がたくさんあり、来てくださった方々はもちろん、サポーターである私自身もとても楽しむことが出来ました。また、故戸倉真知子先生の遺品本も販売しました。先生の書き込みがされた本もあり、生前の先生の思いを少しだけ感じることが出来たような気がします。

日本文学科2年 井上 ちひろ

盛況です



## 11月

今回から、「レジスター」を導入いたしました。それに当たり、全ての本のデータベース化が必須となり、商品1点1点の書名・価格・在庫点数をデータ化し、バーコードを貼付しました。これにより、商品や金銭管理が飛躍的に改善されましたが、操作方法がいささか複雑で、その辺りが心配でしたが、みんな頑張って使いこなしてくれました。

ただ、この新方法により、本来2年生を中心に活動していくはずが、システム導入者の私が主動とならなければならなかったのが問題だったかと反省しています。

今後この活動を続けていけるように、2年生をサポートしなければと思う次第です。

日本文学科3年 三村 弘則

6月

# ブックトークへGoGo!!

6月22日に図書館サポーターは、初めてのブックトークを行うべく、下関市立長府中学校の選書会に参加しました。

ブックトークとは、図書館用語で「児童のグループを対象に特定の作家について、異なるタイプや分野の図書数冊を選び出し、図書館員がそれらの図書について紹介する」ことです（『図書館学基礎資料 第八版』より）。私達は、作家を決めて本を選んだのではなく、学年ごとにテーマを設けて、そのテーマに即した本を、中学生に紹介しました。学年ごとのテーマは、以下の通りです。



1年生…「勉強に興味を持てる本」



2年生…「青春」



選書会



3年生…「夢・進路」



私は、3年生の担当でした。テーマが「夢・進路」だったので、どんな本を紹介しようか、と随分悩みました。また、私は人前で話すのが苦手です。話すこと自体は大好きですが、大勢の人の前に立って発表するとなると、緊張して、早口になり囁んでしまいます。練習の際にも注意されました。

本番では、何とかゆっくり間をあけて、本を紹介することができました。何よりも、中学生が私達の発表を真剣に聞いてくれたことが、とても嬉しかったです。

いつ、またこのような機会が訪れるかは分かりませんが、次回も何らかの形で参加できたら、と思います。練習を見て下さった司書の皆さん、サポーターの皆、そして長府中学校の皆さん、本当にお世話になりました。

日本文学科3年 渡邊 あゆみ

9月

# 大学図書館 学生協働交流シンポジウム

『図書館で未来を語ろう！～大学図書館における学生協働の可能性～』

9月20日に山口大学で大学図書館における学生協働の交流会に参加しました。

「学生協働」とは、学生が図書館の職員の方々と共に図書館運営を企画し、働く活動を言います。我が梅光学院大学の図書館サポーター、山口大学の学生協働、島根大学の図書館コンシェルジュ、島根県立大学の学生図書委員の方々が参加し、それぞれの自分たちの活動や、これからの大学図書館について話し合いました。自分たちの活動について、学内の活動だけでは気づかないことも多くあり、実りの多いものでした。



4大学の学生代表者が  
活動内容の発表を行いました。



山口大学の図書館見学  
学生協働メンバーに案内してもらいました。



司書と学生による  
意見交換

今回のシンポジウムでの山口大学や島根県の大学での活動などの報告を聞いて、意識の違いを痛感しました。急に変わることはできないと思いますが、あの日にもらった向上心を忘れずにたいです。

日本文学科1年 戸嶋 保裕

9月

# BOOK HUNTING



←

バーコード  
リーダー



私も初参加 & 初体験しました！  
楽しかったですよー！  
さて私の選んだ本はどれでしょうか？  
ポップを作ったので手に取って  
見てくださいね。

..by 図書館長

9月22日、福岡へ降り立った。狙いは、一つ。図書館サポーター最大の行事、ブックハンティングという任務を遂行するためである。これは、年に一回、図書館サポーター総動員で博多の紀伊國屋書店に行き、新たな本をゲットするというものである。この行事のために、我々は存在しているといっても過言ではない。そのため、サポーターは朝から気合い十分で博多へと向かった。そして、いくつかのグループに分かれて、1人1万円の予算内で本を選びまくったのである。

このように書いてみると、好きな本を選べるから楽だと思える人もいるかもしれない。しかし、本当は違うのである。図書館をより良く学生に利用してもらうためにはどのような本を揃える必要があるかを常に考えながら、本を選んでいるのである。つまり、選ばれた本には、サポーターの思いが詰まっているのである。

そんな選ばれた本は、もう図書館にやってくる。

ぜひ、一度手に取って読んでみてはいかがかな？

日本文学科3年 福永 兼三

11月

# 第13回図書館総合展／ 学術オープンサミット2011



図書館総合展は11月9日～11日まで3日間開催されました。図書館サポーターは10日～11日の2日間に参加しました。

来場者数は3日間で25,631名でした。図書館サポーターがエントリーした〈ポスターセッション〉部門には60の図書館および関係機関が参加しました。

11月10日～11日に、今年もパシフィコ横浜で行われた図書館総合展に参加してきました。

今回は、「大学から地域へ～図書館学生サポーターの地域貢献～」というテーマで発表をしてきました。会場では、多くの方々に興味を持って頂き、また、サポーターもこれからの活動に関して、様々な意見やこれからの活動の展望を持たれたように思います。

参加したサポーターの感想を一部、抜粋する形で紹介します。

多くのものを見ることが出来ました。次世代を担う現2年生は一年前と比べたらすっかり落ち着き、自らのことだけでなく1年生たちのことを見て、さらにはつい言葉足らずになってしまいがちのサポーター長である私の言葉を陰ながらサポートしてくれさえました。先頭に立ち、組織が迷わないようにと一番前を歩くことしか出来なかった私にとって、その助けがいかに支えとなったのでしょうか。目を光らせて他大学、図書館の活動報告を聞き、展示に目を通すその姿は既に新体制を見据え、いつでも図書館サポーターを引き継げるといった後ろ姿を見せてくれました。

初めての参加となる1年生は、昨年の私たちを彷彿とさせるように見学に、観光に目一杯のように映りました。自己表現が少しおとなしめの1年生たちは、口や態度でこそ伝わりにくいことがまだまだありますが、本紙の感想文に掲載されているように実にしっかりと自分なりの活動への感想、考えを持っていることも、図書館総合展での3日間とその後の活動の端々で見えていました。人数が多く、まだまだバラバラな面も多いですが当時の私たちに比べたら早くもしっかりと結束してきている彼ら1年生の今後の成長の期待に胸を馳せる3日間でもありました。活動を見直したせっかくの機会が一過性で終わらないこと、そして総合展に残念ながら参加出来なかったサポーターたちも巻き込んで活動していけるよう、是非彼らにも自分たちの体験を話して聞かせ、今後の図書館サポーターを担ってほしいです。

3年生は今回は私を併せても3名しか参加してはいませんが、もう2年以上も親交のある彼らでさえ、違う舞台ではまた違った一面を見せてくれました。本人が悔いの残る、と言っていたこれまで3年間の活動について、私からはこの場ではそのことについては言及しませんが、少なくとも下級生たちからは多くの心からの支持を受けていたこと、まだまだ活動していきたいというその想いを見聞きすることが出来たことだけでも、私たち3年生のこれからは非常に大きなプラスとなる出来事だったと思っています。

今後、どのようなことが出来るか、私の中で何がどう形になっているのか、ただの概念で終わってしまっているのか、掘みあぐねています。先輩方の引退の間際、引き継ぎの最後、ここ最近の自分の考えや思い。誰にも言わなかったこと。様々なことが飛来した1日でした。発表を見た後、私は会場内を重点的に周り、去年気になっていたにも拘らず見に行けなかったブースを探し、また、ポスターセッションを写真に収めるべく、各ポスターを見まわりました。来年、どのような活動をしていくにしろ、どのような展示の仕方があるのか、大学図書館で行っている毎月のポップの展示の仕方、なにか役に立つものはないかと、シャッターを切りながら思いを走らせていました。1年生がポスターセッションのブースで頑張っている姿を見ながら、頼もしさを感じつつ、気ばかりが焦る自分も感じました。身の振り方も立ち位置も確実に変わるので、見えない先にしっかりせねばと、他人に相談することを覚えようと思いました。

日本文学科2年 澤田 瑞穂

今回、横浜に遠征し人との繋がりを感じました。昨年、横浜に行った際に名刺を渡した企業から名指しで招待状が来ました。その企業に向かうと社員さんが私を覚えていてくださったのは嬉しく、このような繋がりを大切にしていきたいです。

今回は今後どのように図書館サポーターという組織を進めていくかという事を遠征中でも考えていました。一年、長いようで短いものです。去年の横浜以来、図書館サポーターという組織は大きくなりました。正直、以前とは比べ物にならないくらいでしょう。まだまだ頼りない2年生ですが、今後、上に立つにつれてしっかりとしていきたいと思います。

日本文学科2年 河内野 春紀

初めての経験で、何をすれば良いのか分からず、サポーター長を見て、先輩方を見て、色んなことを感じました。パシフィコ横浜に着いたときには、まずとても人が多くて図書館にこんなに關心や興味を持っている人がいるのか、と驚きました。図書館利用者や司書、図書館サポーターのような学生による支え以外に、企業も図書館に様々なところで協力関係を作っていて、図書館の運営や存続はそういった多くの企業にも支えられていることに気付きました。

日本文学科1年 古賀 有美子

今回、参加して特に感じたことは「図書館の可能性」である。これまで地元の図書館や、学校の図書館くらいしか知らなかった自分にとっては驚かされることばかりだった。日本、ひいては世界の図書館の現在を見て、図書館がどこまで利便性を高めることができるのか、どれだけ多くの役割を持つことができるのか、正直考えたこともなかったことを考えさせられた。これまでの私なら「現状の図書館で満足しているか？」と問われれば「満足している」と答えていただろう。だが、今回参加してみて図書館が持つ可能性を目の当たりにし、図書館とはまだまだ改良の余地のあり、進化するものなのだと感じた。図書館サポーターとして、仕事としてしなければならないだけでなく、自分たちの意思で発展させることを「しなければならない」のだと思った。大学図書館ができること、私自身もそれを考えて見つけていきたいと思う。

日本文学科1年 大森 一央



# 第六回 読書家大賞

## 受賞者はあなた！応募受付中！！

「読書家大賞」は、梅光学院大学父母会課外活動等奨学金で  
サポーターがいただいたお金で運営しています。

### 【応募要項】

対象：梅光学院大学に在籍する学部生

#### ☆賞の種類☆

☆読書家大賞：指定期間に最も多くの本を読んで応募した人

☆準読書家大賞：大賞は逃したが、多くの本を読んだ人

☆ナイスコメント賞：応募した本の冊数に関係なく、サポーターの

心をグッとわしづかみにするハッとするようなコメントを書いた人

☆ナイスポップ賞：本を宣伝する素敵なアートを作成した人

#### ☆対象となる本☆

梅光学院大学図書館所蔵の本、大学生協の「読書マラソン」に応募した本

#### ☆応募方法☆

① 図書館備付の応募用紙に記入、図書館設置の応募箱に入れる

② 記入事項は名前（ペンネーム可）、本の短いコメントなど

③ 応募期間 2011年10月初旬～2012年10月初旬

副賞：高額図書券 [何と、生協でテキスト購入にも使える] 昨年の大賞は1万円！！

審査発表および授賞式は2012年秋季宗教講演会で行います。

#### 審査方法

①大賞・準大賞：図書館の応募用紙と、「読書マラソン」の応募カードの合計数で決定

②ナイスコメント賞・ナイスポップ賞：サポーターが選定

応募方法は**簡単**。本を借りたついでに「一言」コメントを書けばOK。

応募者にはもれなくオリジナルグッズを贈呈。

### ◆編集後記

お待たせしました、『タブラ・ラサ』16号をお届けします。

2011年の図書館サポーターの活動をぎゅっと詰め込んでみました。皆さんから見て、図書館やサポーターは、どう映っているのでしょうか。

今号で我々3年生は引退します。といっても辞めるわけではありません。主軸は2年生に渡し、より利用しやすい図書館を目指して、図書館もサポーターもいっそう努力をしていきたいです。

ご協力をお願いします。

図書館サポーター副長・日本文学科3年 菰方 紫乃